



キュビズム的なデフォルメにより、どこかコミカルでもある



ピカソは「ゲルニカ」の制作だけは経過を見せたいと考えていた。それは自分の作品に多くの者が関心をもつことで、反ファシズムへの意識が強まるという思惑があったからだ。

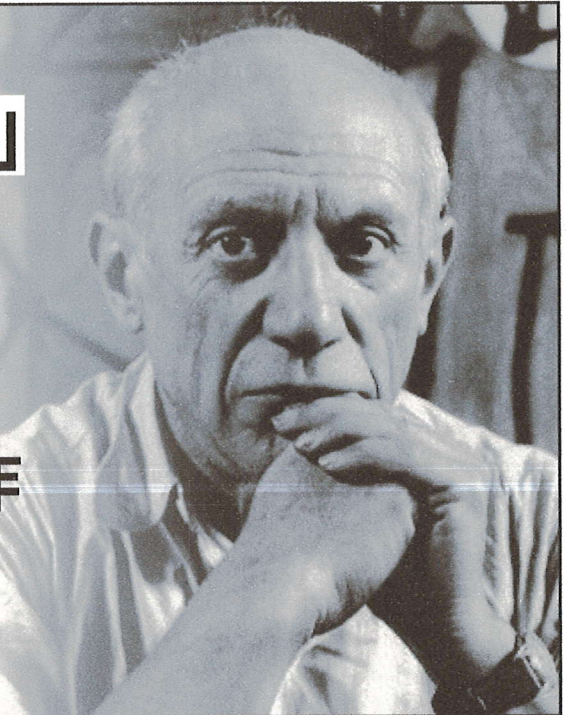
「20世紀最大の画家」

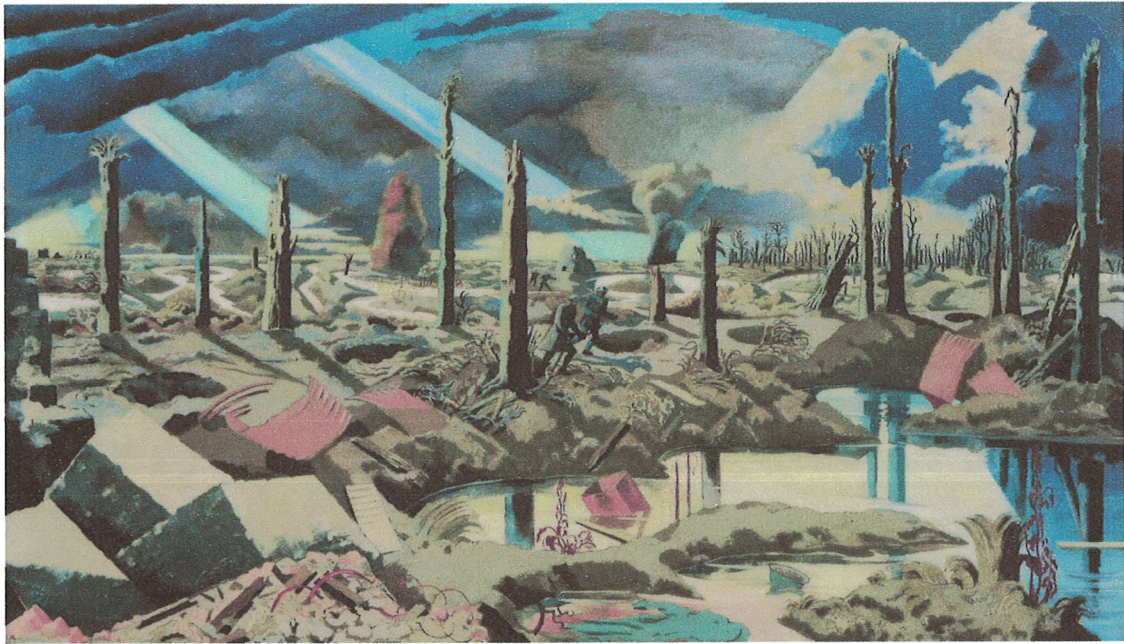
1881年～1973年

スペイン生まれ、 フランスで制作活動

ゲルニカは56歳で制作

ドイツ国防軍の将校から「『ゲルニカ』を描いたのはあなたですか」と問われるたび、「いや、あなたたちだ」と答え、同作品の絵葉書を土産として持たせたという。生涯におよそ1万3500点の油絵と素描、10万点の版画、3万4000点の挿絵、300点の彫刻と陶器を制作し、最も多作な美術家である。





メニンロード

イギリスを代表する具象系画家



写実的な画風で、風景画を描いていた。

1889年～1946年

「死の海」は
52歳で制作

シュールレアリズムの中の「デペイズマン」=意外な組合せで強い衝撃を与える技法を使った絵画



「明日の神話」
原爆が炸裂する悲劇の瞬間を表現

太陽の塔





日本の前衛芸術家 1911年 - 1996年

「明日の神話」は57歳で制作

18歳でパリに渡った。フランスはモンパルナスにアトリエを構えた。1940年、戦時体制下の日本に帰還。間もなく徴兵され戦場へ、青山の自宅は空襲で作品共々全焼。0からの出発を余儀なくされる。

シュールレアリズムの一つ
アバンギャルド(自由な発想・自然
主義の否定・革新的芸術)と言われる。



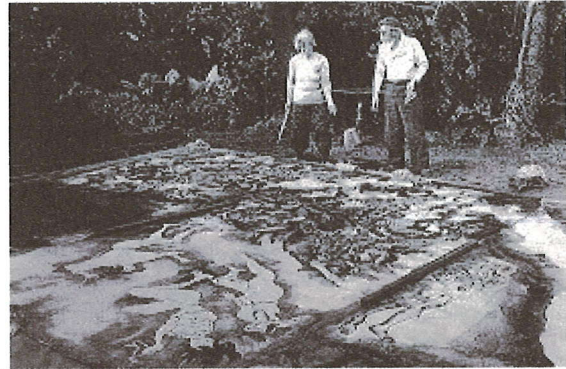


1901年- 1995年

「沖縄戦の図」の制作は 位里が81歳から着手

絵は全14部からなる。「集団自決」「喜屋武岬」「ひめゆりの塔」「沖縄戦の図」など最後は戦後の読谷村よみたんそんを描き、若者に未来を託す画となった。

まるき いり・とし
**丸木 位里・俊は夫婦
日本画家**



「風船と少女」



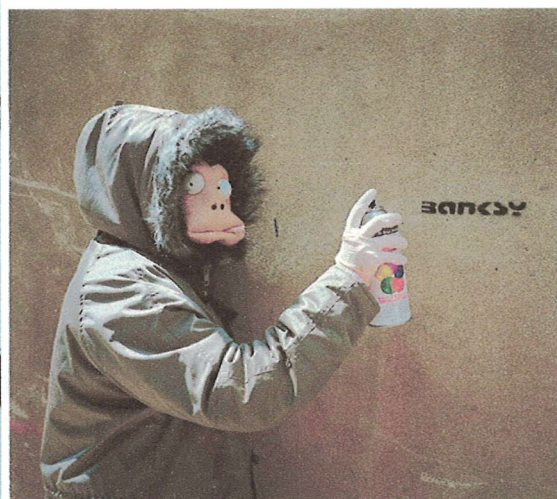
「核軍縮運動とピースマーク」



「愛は空中に」

街中の壁に描かれる政治色の強い
ストリートアートと、社会風刺の効いた作風
で人気を博している覆面アーティスト。

「柔道家を投げる子どもの絵」



生年月日未公表
(活動は2000年から)
イギリスを拠点とする
素性不明のアーティスト
(路上芸術家)

反戦、反消費主義、
反ファシズム、反帝国主義、
反権威主義、アナキズム、ニヒリズム、
実存主義など、様々な政治的社会的テーマを
扱ってきた。

